

国家百年の大計の為に

中村 沝郎 (山口県、有倫館学園・総長)
平成 16 年 2 月 25 日

教育は国家百年の大計である。明治、大正の日本人が優秀であったのは、それより前の江戸時代、我が国の教育水準、内容が、シーボルトが驚くほど人として立派であったからである。当時は義務教育制度がなかったから、学問したい者は競って学んだ。

本来、学問は受けたい者が受ければ良いのであり、猫も杓子も大金を浪費して、役にも立たぬ大学に行く愚かさから見れば、戦前、小学六年を義務教育とした制度の方がよほど良い。しかも、「三步下がって師の影を踏まず」の師弟節度を弁えていたので、一つ事を習っても身についた。

日教組、高教祖など、左翼や共産主義者共のもっともらしい話に、人権屋、平等屋の横行と共に、味噌も糞も一緒にする愚かさを繰り返し、ついに現在の教育現場の崩壊、家庭崩壊、そして社会全般の退廃は目を覆う。

戦後、そのような墮落社会の中で、戸塚ヨットスクールが、かろうじて独り日本で、戦前教育要領をもって訓練を通じ、脱落青少年の人間回復と奮起、社会復帰教育を展開したが、ダメマスコミと法匪らは戸塚校長を逮捕、拘置、さらに聞く耳持たずの刑執行となって今日に至っている。これによる健全なる教育理念を持つ日本人の台頭を挫き、可もなく不可もないダメ人間養成は、逸脱した不良徒に拍車をかけた。

戦前日本健全教育から見れば、戸塚教育は極めて普通であり、特異なものではない。糞生意気なチンピラ横行と言われる小・中・高時代、新聞もろくしったま読めない連中には、節度ある精神基盤に樹って、まず国語を充実させ、日本正史を教え、人としての何たるかを教育しなければ、何の役にも立たない。今、日本中、我が国歴史伝統の素晴らしさ

を知らず、まず人と生まれた生き甲斐がないのである。

戸塚は、叱らぬ父と優しすぎる母に生まれ、良い子いい子のミルク育ちの腑抜共に、太平洋の厳しさを通じ、人間回復を実現したのである。綺麗事で済まず、平和ボケした今の日本で、極めて希少価値の高い男を、「法」の名のもと拘置しているその被害は、「人間社会」の正しい立場から見れば大損害である。その思想の後退、戸塚教育方針の弾圧は、我が日本の今と将来のために大被害である。

これに益する者は、日本解体に躍起となっている左翼思想であり、鼻持ちならぬ東京裁判の、不当、残虐史観に毒され、自虐観念に囚われている不勉強者、ダメ人間らにとっては、打ってつけの利であろう。

戸塚宏校長の、一日も早い出所を願うと共に、戸塚式教育理念の理解、普及、活動の展開、浸透を願い、愛する日本の将来、百年、いな、千年の大計のため、大和心の覚醒を叫ぶものである。

